

第2回新潟市資源再生センター指定管理者申請者評価会議 議事録

日 時：平成30年10月18日（木）午後2時から午後4時まで

会 場：新潟市資源再生センター2階 大研修室

委 員：大橋 克己（大橋事務所代表 中小企業診断士）

関谷 浩史（新潟県立大学国際地域学部 准教授）

高橋 敏子（新潟市消費者協会新潟支部 理事）

山田 久美子（地域住民代表）

事務局：廃棄物対策課 塚本課長 真水課長補佐 伊藤リサイクル推進係長
渡辺一般技能員

傍 聴 者：1名

（司会）

ただいまより、第2回新潟市資源再生センター指定管理者申請者評価会議を開催いたします。本日は、大変お忙しいところをご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の流れにつきましては、これから申請者によるプレゼンテーションを15分行っていただき、その後ヒアリングを15分程度行う予定としております。その後、会議に入って採点をしていただきたいと思います。なお、会議からは非公開となりますので、傍聴の方におかれましては、応募団体のプレゼンテーション、ヒアリングが終了した段階でご退席をお願いすることとなります。

ただいまより、環境をサポートする株式会社きらめき様によるプレゼンテーションを始めます。本日は、提出をいただいた申請書類について説明をお願いいたします。説明は15分以内といたします。残り1分前になりましたらチャイムを1回鳴らしますので、まとめに入りたいと思います。15分を経過したところでチャイムを2回鳴らしますので、終了してください。その後、ヒアリングを15分程度行います。

それでは、よろしくお願いいたします。

申請者によるプレゼンテーション（省略）

ヒヤリング

(司 会)

大変ありがとうございました。

それでは、これよりヒアリングに入りたいと思いますので、委員の皆様いかがでしょうか。

(高橋委員)

細かいことですが、質問させていただきます。1 ページ目の指定管理者管理運営業務の総括という表がありますね。その中に、小学校による施設見学の減少への対策、これは対象学年は何年生なのですか。

(申請者)

お答えいたします。対象学年は、小学校4年生を対象にしております。学校でも3Rについては、先生方が子どもたちに授業をやっているというのが今の現状でございます。

(高橋委員)

どのくらいの、市内全部の学校が見学に来ますか。

(申請者)

はい。

(高橋委員)

1年間で全部網羅するわけですか。

(申請者)

網羅ではありませんが、中には学校の事情もございまして、毎年毎年来るというわけでもないのですけれども、周期的に二、三年に一回とか、また市外からおいでになる小学校もございまして。

(高橋委員)

それから、その次の5Rへの深化、リフューズ講座の未実施。リフューズについてはイベントを開催すると書いてありますが、例えばどのようなことを考えていらっしゃいますか。

(申請者)

リフューズですと、私どもとしては、3Rを中心にして、これらを小学生の子どもたちに教えているというのが今の現状でございます。

(高橋委員)

やっと3Rが浸透してきたかなというところに、今度は5Rなどといっているから、少し大変ですよ。

(申請者)

これから努力してまいりたいと思っています。

(高橋委員)

これからですね。私どもも、まだ少しドキマキしているところですから、小学生から聞いていかなければならないかなと思います。ありがとうございました。

(大橋委員)

私から、様式 14 の収支計画書について教えていただきたいのですが、多分、収入が実績よりも 200 万円と少し増える予定ですね。支出は人件費が大体 48 パーセントくらいを占めているのですが、この増える収入のかなりの部分が人件費の増加、人件費が実績よりも 200 万円くらい増えるのですが、人件費が今後増えるという理由について教えていただけますか。

(申請者)

今回から仕様が変わりまして、今まで清掃の部分についてはうちの範疇ではなかったのですが、今回から清掃でありますとか、設備部門について、うちの指定管理の範囲に入りましたので、その部分での増加となっています。

(大橋委員)

清掃と保安管理ですか。

(申請者)

そうですね。設備管理です。

(大橋委員)

もう 1 点ですが、15 ページに職員の月間シフト表が、これは来年の 4 月からですが、これを見ると、大体一月に 10 日から多い人で 12 日くらい休まれているのですが、来年 4 月から、今回の働き方改革の関連で五日間の有給休暇の取得が義務付けられることになっていますが、それらの達成は可能な計画になっていますか。

(申請者)

はい。実は、当社では、ここの施設では、定期的に計画的有給をしておりますので、パートについては、年間ほぼ 10 日くらい計画的に消化しております。ただ、その時期というのは、当然忙しい時期は外して、実はここはお盆の時期というのは暇なので、それから 1 月、2 月というのはほぼ来館者がいないような状況が続きますので、そこで重点的に有給消化をするというような形を現在でもとっております。

(大橋委員)

ありがとうございました。

(関谷委員)

大学の教員なので、公益性という立場と、それから納税者の立場から質問させていただき

たいのですが、まず、新潟市の財政が厳しいということは公の知るところだと思うのですが、その中でこういう施設をどう維持していくかということは、その大義名分というか、存在理由がものすごく大きいと思うのです。その中で、ゴミ処理ということが非常に大きなコストになって、そのゴミに対する処理コストというものが、これからは非常に単身者が増えていきますから、私自身もゴミの研究をしているので、その辺のところ非常にナーバスになる部分なのですが、単身者の増加と、いわゆる不燃ゴミの増加というのは相関関係にありますから、そういうものをどのように対処していくかということが、やはりこの拠点の存在意義にもなりますし、啓発事業の要になると思うのです。長年運営されてきたということもあるので十分なノウハウがあるのは十分理解しているのですが、これからはまたそれに対して、経験があるからこそどのような経験からどういうことを、この場所のこれからの存在理由として非常に大事にしていかなければいけないかということが問われると思うのです。

その中でスマートウェルネスという、非常に大事な健康というキーワードをもってきても、結局新潟の消費行動を見てみると、車でものを買に行くとすることで、過剰に物を買ってしまうという事態がありますし、それが食品ロスにつながったりとか過剰にカロリーを摂取して不健康になるという、ライフスタイルの問題にまで発展していくわけです。

課題の中を見ますと、大学、専門学校というものの連携ということが掲げられていて、これはまさしくライフスタイルという観点と、いわゆる教育的課題というテーマで掲げられていると思うのですが、実際に実行体制の 23 ページを見てみますと大学の存在がないと。それと同時にいわゆる普及啓発ということに対する十分な措置といえますか、見当たらないので、それについて、ぜひ今までの経験を踏まえて、先ほど申しましたようないわゆるゴミを通じる新潟市の一つの行動特性、それに対してどのような取り組みを今後していくのかということをお話したいのですがまず1点です。

2点目は、この場所に対する認知度を高めるということはものすごく大事なことで、いわゆる先進的なITを活用して若者向けに情報発信をするというのは非常に大切だと思うのですが、ただ来ればいいわけではなくて、来て、そして何なのだという部分がいわゆる教育啓発ですから、そう考えたときに、非常に魅力的なITコンテンツが並んでいるわけですが、そこでやられるさまざまなプログラムとかというものが、先ほど言ったような新潟市のライフスタイルに関する課題と、最終的にそれがゴミという一つの副産物につながるわけですから、そこをどのように読み解いて提案されているのかという2点についてお話ししたいと思います。

(申請者)

ありがとうございます。いろいろためになるご提言、ありがとうございます。ただ、なか

なか先生が言ったことにすべて答えられるかどうか、少し疑問なのですけれども、当社の考えられる範囲内で答えさせていただければと思うのですけれども。

まず、大学との連携ということ、ここを受注してからもう8年間、確かにずっと模索していました。新潟大学の環境サークルであるとか、県立短期大学も何度かお邪魔させていただいたこともあったと思うのですけれども、実際、なかなか進んでいないというのが実情ではあります。当然、環境専門学校もありますし、今、いろいろな専門学校もあるので、そういったところにも何度かお邪魔させていただいて、それこそ所管課と一緒に邪魔させていただいてという中でやってはいるけれども、今のところそれがなかなか現実的になっていないというのが実情で、逆にその辺の大学との連携というのは八方ふさがりになっているというのが実情ではあります。結局、当社がそこからどこに行くかという、やはりどうしても環境問題を扱っているNPOとか、そういった環境団体とか、地域のそういうボランティアとか、どうしてもそういうところとの連携を深めていく中で、今後の環境、新潟市は全国でもかなり認知度の高い環境都市でもありますので、そういった中のリサイクルとか、そういった問題とか、どのように考えていくのだというのは、何かいろいろな協議をさせていただいております。

その中で、今回、当社がスマートウェルネスシティ新潟という題材を捉えたというのは、スマートウェルネスシティ新潟というのはどうしても健康ばかりの側面がけっこう言われるところがあるのですけれども、新潟市は環境健康都市という、非常に先進的な取り組みをやっていきます。実際、未来ポイントなども健康増進教室などに参加されるだけでなく、ここでの環境啓発事業などに参加された市民の皆様にも付加されるような、少し先進的な取り組みをしている中では、ではその中心施設であるここが、それに対してどういう取り組みができるのではないかと、ではこれから考えていくきっかけにしようというのがまずなので、ここの今の時点ですべての答えをもっているわけではありません。特に私どもが考えるのは、先ほどから何度も言っているのですが、25周年を迎えるに当たって、先ほども新潟市の財政という話もしていましたけれども、3Rだけでこの施設を実際に付加価値として出していくには少し厳しいのかなと。その中で、やはりスマートウェルネスシティ新潟という中で、健康と環境を結び付けるライフスタイルの中でどのような役割ができるのかという、考えるきっかけをこの次期指定管理者の中でやりたいという提案なので、今、そこに具体的な答えをもっているかという、実際はもっていません。

ただ、私たちとしては、新潟市の先進的な取り組みについて非常に意義のあることだと思っていますし、その中で所管課と協議をしながら、ここが25周年を迎えたときに3Rだけの施設ではなく、今後、環境健康都市としての役割として何ができるかということ、この

中で具現化できるようにいろいろな提案をしていきたいと考えています。その中で先ほど言いました防災とか、防災と環境とか、健康と環境とか、あるいは先ほど先生も言われた食品ロスの問題とか、少し重点的に年度ごとにいろいろなものをテーマにして、いろいろなものを発信しながらやっていきたいと。その中で、ここは年間で2万人くらいの利用しかないので、できればその利用人数も、倍とは言わないですけれども、もう少し、ここはけっこう条例のしがらみがあってなかなか利用しづらいという面もあるものですから、そういったところを所管課と協議しながら、もう少し環境という枠を広げつつ、スマートウェルネスシティの一貫としてここを利用できるような体制を整えて、もっと市民の皆さんが利用できるような体制を整えていきたいというのが、第1問目の答えになっているかどうか分かりませんが、そういった意味合いです。

2も、今言った答えと非常に似通った部分ではあるのですけれども、一つ、先ほどARですとか、デジタルコンテンツを今回重点的にやろうといった試みの一つとしては、当然、今、スマホやタブレットを持っている人たちが非常に増えてきたということもあるのですけれども、まだ実際に具体的にアンケートを取ったわけではないのですけれども、やはりどちらかというとけっこうハイエンドというか、どうしても50歳代以上というか、60歳代、70歳代の人が多いです。今でも。そういった意味では、やはり20歳代から50歳代くらいまでの人にとっては、まだまだ認知度があるとは言えないと感じています。先ほど小学校で4年生にやっていると言いましたけれども、実際、年間440校くらいの学校が来るのですけれども、ではそこからリターンでその子どもたちが来てくれる取り組みができていくかという、まだなかなかできていないと。やはり学校で一回来ただけけれども、おもしろいことがあったから次にここにもう一回、今度はお家の人と来てみようかなというような、うちとしてはまだそこが十分にできていないと。では、その次にもってくるのは何かといったときに、やはり今は生活に必要不可欠になりつつあるスマホであったりタブレットといったデジタルコンテンツを使って情報を配信することによって、そういう子どもたちやそのお母さん方とか、そういう方々に興味をもってもらえる。あるいは、先ほど言いましたリサイクル展示提供品などの、今、ARなどをかざすとサイズが出るような仕組みもあるので、そういったものでより利用しやすい環境を整えることによって、もっと中間層の人たちに来てもらうことによって、この施設が将来的価値をもってくれるようになってほしいということで、なかなかハードルは高いのですけれども、今回、デジタルコンテンツの導入を重点的にやってみようということで提案をさせていただきました。

すみません。長くなっちゃったけれどもあまり答えになっていなかったのですけれども、申し訳ありません。

(関谷委員)

大学が拒絶しているからできないなら、少なくとも私は協力します。

(申請者)

ありがとうございます。よろしく願いいたします。

(山田委員)

山田です。よろしく申し上げます。一般市民の立場で出ておりますが、私、お隣の校区の木戸小学校の教育コーディネーターをしております。子どもたちも見学させていただいたり、お世話になっております。

私などは、20歳代、30歳代のときには、抽選に来たりとか、エコプラザにはとても興味をもっておりました。今お聞きしてみると、そういう世代の方たちはあまりいらっしゃらないというお話ですが、けっこう皆さん、何かあるぞとか、興味をもっている方はいらっしゃるのではないかなと思うのですが、もう少し伝わる方法があるといいのではないかと思います。

そこで質問させていただきたいのは、エコプラザ通信がどのような形で配信されているのか。新聞折り込みとか、どういう形なのかということと、簡単でいいのですが、啓発にネットをご利用されているようですが、ポケモンのスタンプラリーゲームというのはどういう内容なのかということをお聞かせいただきたいと思います。

(申請者)

最初のエコプラザ通信についてお答えさせていただきます。これは、年3回、これからもそうですが、現在7月と11月、2月に発行させていただいております。どのように配信をしているかというお話でございますが、これについては、学校の4年生がおいでになったときに配布する。もう一つは、老人会の方がおいでになったときに配布する。それから、チラシや新聞等には配信はしておりません。それによって3Rというものを浸透させていくということが一つの目的。それから、ここの各種イベント、または講座等のPRというものを兼ねながら、ここの施設を大いに利用していただきたいということで発信しております。

(申請者)

ARのスタンプラリーをどのようにと。今のイメージでしかないのですが、ARポスターといいまして、ポスターにかざすとそこの中に仮想現実が写るようなシステムが今あるのです。そういったものでエコプラザのポスターを作りまして、市内の、学校なども含めまして、そういった目立つところに貼ってもらいまして、スマホをかざすとその中に何かしらのクイズみたいなものが、クイズでも何でもいいのですけれども、クイズなどがあると。そしてそのクイズに答えてもらって、それが何点か集まると、ここに来てもらうと何かの得

点を差し上げられるとか。あるいはこの施設の中にクイズが隠れているから、それをスマホでかざしてもらって、スマホというかポスターなのですけれども、ARポスターにかざしてもらおうといくつかいろいろなクイズが隠れているから、それに答えてもらおうと何かしらの得点がつくとか、そういった形で、どちらかというところこの施設内もそうなのですけれども、ほかの施設にARポスターを貼ってもらって、そこでエコープラザの情報をとってもらって、そのポイントを持って来てもらおうと、何か楽しいことがあるようなことを今考えております。

(山田委員)

分かりました。ありがとうございました。

(司 会)

委員の皆様、ほかに何かご質問等はございますか。

(大橋委員)

この施設の目的の一番は、環境啓発とお聞きしていますけれども、9ページの様式 11-2-Aで環境啓発講座の数値目標が平成 29 年度の実績よりも下回っているというのは、何か理由があるのでしょうか。

(申請者)

平成 30 年度の目標ということですか。

(大橋委員)

平成 29 年度がピークで、平成 30 年からまた上がっていきますけれども、要は、回数は増えているのですね。ただ、参加者人数ですか、これが減っているという理由。例えば内容を濃くしているから減るのか、その辺は。数値目標ですから、これを下げるという意味が。

(申請者)

お答えしますと、平成 29 年度の目標値があまりにも高すぎたものですから、このような数字になったというのが現状でございます。平成 30 年度では、前年度の目標値が高すぎたものですから落としていって、そして徐々に上向いていこうというような考え方で取り組んでいきたいと考えています。

(大橋委員)

ありがとうございました。

(司 会)

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(廃棄物対策課長)

では、私から。所管する立場で確認させてください。

施設の経営理念の中で……ありがたいことだと思います。今ほど大橋委員もおっしゃられ

たように、当施設の環境啓発というものが主たる目的の施設の中で、今の市の条例の規定によりますと、やはり環境啓発から外れたものについての利用というのは、実は非常に難しい状況だということで、それをメインにしながら、例えば環境啓発のペースをもった防犯、防災とか世代間交流というような取り組みを考えていくということで理解してよろしいでしょうかということが1点。

もう一つは、月間シフトをわたしも拝見したのですけれども、いわゆる統括施設長という方が新たに設けられたということで、これはあくまでも当施設の、先ほど関谷先生からもお話があった大学との連携とか、新たな啓発事業を探る、または検討する、それから働き方改革に伴う、働く方が今まで以上に仕事仕事という形にならないことをサポートするためにこの施設長がフリーでいらっしゃるということで理解してよろしいかと。この2点です。確認です。お願いします。

(申請者)

1はまさにおっしゃるとおりで、必ず環境と結びつけた防災でありますとか、地域交流でありますとか、健康でありますとか、そういったものを新たな付加価値として展開していきたいということです。

統括施設長に関しましては、塚本課長がおっしゃられたとおりのものが一つと、それから、今回、うちの中ではエリアマネージャー制と言っているのですけれども、分かりやすく統括施設長にしたのですけれども、今まで、正直な話、私の立場で施設に日を決めて来るというようなことが実際なかなかできていなかったのが実情なのです。私も県内26施設もっているものですから、そうなるとうちまで月に1回とか2回しか来られなかったのですけれども、それを今回、大きく三つに分けて、その中で私は新潟エリアをきちんと担当すると。その中で、当然ながら、先ほど課長が言われました職員の勤務体制であるとか、あるいは館長、副館長などの教育、指導、それからどうしてもこの施設だけにいる職員だと、やはりこの施設にいることがスタンダードになって、結局ほかの指定管理者の施設とのスタンダードに差が出るとよくないという中では、やはりサービスの標準化を図る意味でも、他施設の事例を水平展開することによってどこの施設も一定の水準を保つということを目指して、今回、統括施設長制を導入いたしました。そういうところでございます。

(廃棄物対策課長)

よく分かりました。ありがとうございました。

(高橋委員)

もう一ついいのでしょうか。Wi-Fiを設置するということで、これは、費用はどのくらいかかるのですか。

(申請者)

費用は、年間で多分 40 万円くらいかかると思います。

(高橋委員)

先ほどの何とかゲームの、ポケモンゲームですか、それにならってスタンプを集めて粗品とかとおっしゃっていましたが、そういうものも含めて 40 万円ですか。

(申請者)

いえ、Wi-Fi だけです。

(高橋委員)

Wi-Fi の設置。

(申請者)

設置はまた別です。

(高橋委員)

初期投資は。

(申請者)

初期投資だと、大体 30 万円くらいだと思います。

(高橋委員)

年間そのコストがかかるわけですね。

(申請者)

ランニングコストは 40 万円くらいだと思います。

(高橋委員)

40 万円。では、当初は 30 万円プラス 40 万円ということですか。

(申請者)

そうです。70 万円くらいだと思います。

(高橋委員)

その効果は、それ以上にあるとお考えですか。

(申請者)

やはり、今なかなかWi-Fi がない公共施設というのは非常に辛いのです。正直言って。

(高橋委員)

私には全然分からないのですが、ポスターを貼りめぐらせれば、若い人がこうして、ここに来なくてもこの施設を感じられるという効果はあるのでしょうか。

(申請者)

そうですね。

(高橋委員)

せっかく自販機で儲かったお金で足りるのですか。

(申請者)

いえ、足りません。

(高橋委員)

そうですか。大変ですね。頑張ってください。

(申請者)

はい。

(司 会)

ほかにはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ありがとうございます。ヒアリングにつきましては、これで終了とさせていただきます。この後、会議があるのですが、会議の結果につきましては、後日連絡をさせていただきます。本日は、大変お疲れさまでした。

(申請者)

ありがとうございました。

(司 会)

以上をもちまして、新潟市資源再生センター指定管理者申請者のプレゼンテーション及びヒアリングを終了いたします。

この後の会議につきましては非公開となりますので、傍聴される方におかれましてはここで退室となりますので、よろしくお願いいたします。

討議・委員採点・集計（非公開）

(司 会)

この資源再選センター、指定管理者申請者の評価は、今ほど申したようになりました。大変ありがとうございました。

今後、委員の皆様から評価をしていただいた結果、意見を参考といたしまして、私ども12月議会の定例会に議案として上程いたしまして、議決を経るといった今後の流れで進めてまいります。また、今回の評価結果につきましては、後日、選定理由、それから採点結果というものをまとめて市のホームページで公表いたします。

それでは、以上をもちまして、第2回新潟市資源再生センター指定管理者申請者評価会議を終了いたします。長時間に渡る会議、ご出席いただきまして大変ありがとうございました。